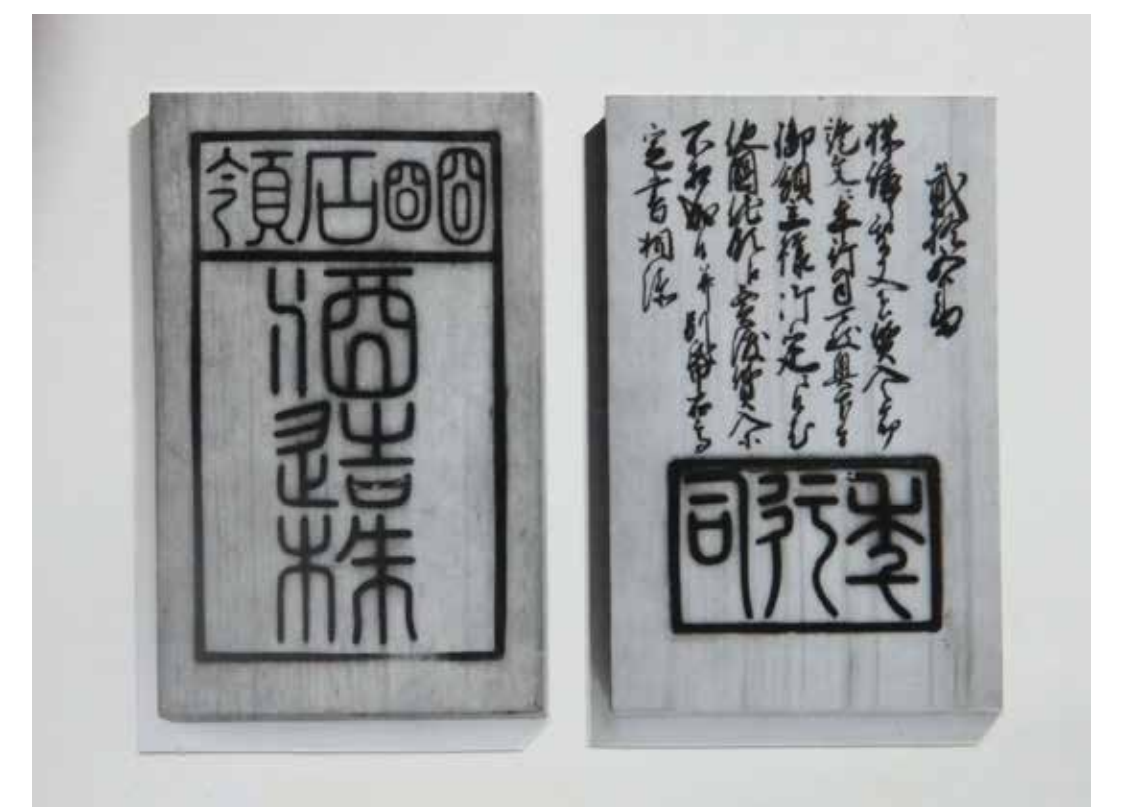


江井ヶ島の酒

1 江井ヶ島の酒造り

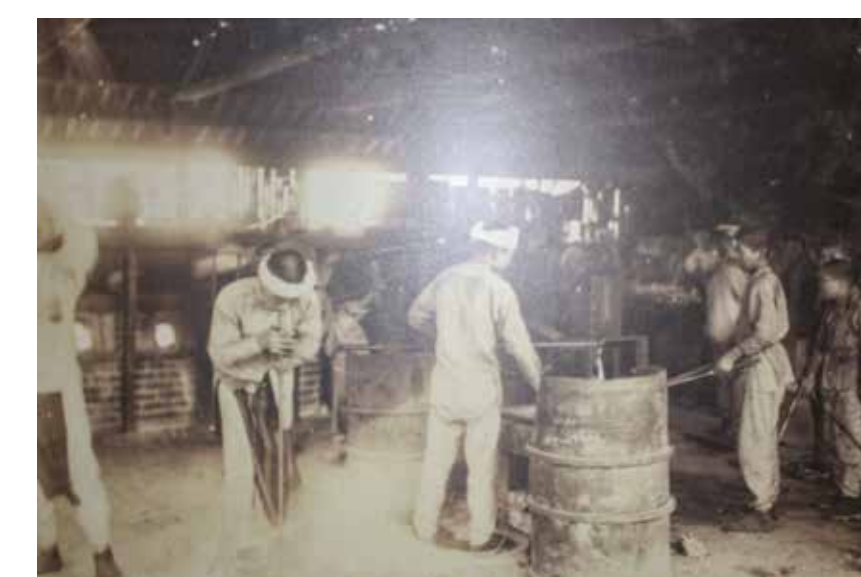
- 水(良質の湧き水)と米(播磨平野の酒米)に恵まれた江井ヶ島は、江戸時代初期から、酒作りが盛んになって、「灘」と呼ばれた。
- 西島の卜部家の卜部八兵衛(2代目)が1679年(延宝7)に酒造りをしていたという記録が残っている。
- 神戸・西宮の灘五郷の酒が全国的に知られるようになり、江井ヶ島を中心とした地域は「西灘」と称するようになった。



明石領の酒造株(1679年)

2 江井ヶ嶋酒造

- 卜部八兵衛(5代目)の弟・兵吉は独立して酒造業を営み、事業を拡大した。
- 1888年(明治21) 卜部兵吉が江井ヶ島地区の酒造業者に呼びかけて、江井ヶ嶋酒造株式会社を設立。資本金3万円。
江井ヶ嶋酒造のことを地元で「かぶしき」と呼んだのは、最も早い時期に株式会社の組織にしたことによる。(先端的な誇らしさと、周囲に同様の会社がなかったことによる)
- 明治20年代に、販路は北海道や台湾にも拡大し、明治30年代にはハワイ、明治40年代には韓国へも。
- 1891年(明治24) 灘の新在家に酒造場を増加(1926年に閉鎖)
- 1899年(明治32) 自社に製瓶工場を持って、「日本魂」の一升瓶を、他社に先がけて販売。
- 1919年(大正8) 蒸留工場を竣工して、焼酎、味醂、ウイスキー、ブランデーを発売。2年後にはワインを発売。
- 1963年(昭和38) 山梨ワイナリーでワインの醸造を開始。
- 1984年(昭和59) 本社の新ウイスキー蒸留所を竣工。
- 江井ヶ嶋酒造は、県内唯一の総合酒類メーカーである。(多様な酒類を作る会社は、全国的にも珍しい)
- 7つの木造蔵すべてが、現在も使用されている。
一番蔵(1889年竣工) 二番蔵(1891年) 三番蔵(1892年) 四番蔵(1896年)
五番蔵(1910年) 六番蔵(1918年) 七番蔵(1959年)



製瓶工場の様子



明治時代の記録簿



昭和時代の会社全景



一番蔵



四番蔵



酒類運搬船

【参考】

「日本の会社ベスト100の変遷」というランキングで、1896年(明治29)のランキングは、100社のうち57社の業種が繊維。鐘淵紡績(1位)、大阪紡績(2位)、三重紡績(3位)。水産・食料品が10社、鉱業が7社、窯業が7社。
水産・食料品の10社とは、札幌精糖(27位)、大阪麦酒(37位)、日本麦酒(43位)、日本精糖(54位)、摂津製油(72位)、**江井ヶ嶋酒造(80位)**、糖業(83位)、日本精製糖(88位)、日本摂酒(91位)、堺酒造(99位)。
(出典…日経ビジネス(編)『会社の寿命 盛者必衰の理』(新潮文庫))

3 太陽酒造

- 1839年(天保10) 田中利助が江井ヶ島で創業。
- 1958年(昭和33) 太陽酒造株式会社となる。



太陽酒造

4 大和酒造

- 1955年(昭和30) 創業。
- 銘柄は「大和鶴」であるが、卸売りのみで小売りはしていない。



大和酒造

5 ながさわ江井島酒館

- 「ながさわ江井島酒館」は、元の白鶴酒造江井島支店の建物を活用した施設。徳利などの博物館を併設している。



ながさわ江井島酒館

6 その他の酒造会社

1955年(昭和30)ころには、江井島には次のような酒造会社や組合があった。(50音順) 酒造会社と、当時の代表的な銘柄を挙げる。

〈大久保町江井島〉

明石酒造組合
池田平蔵商店……………初笑
恵美須酒造……………聖泰
田中酒造……………玉箒
田中広治商店……………太陽
三木酒造……………白菊

〈大久保町西島〉

卜部酒造……………天啓
江井ヶ嶋酒造……………日本魂
大和酒造……………大和鶴
白鶴酒造(支店)………白鶴
藤田酒造……………蛤正宗
本卜部商店……………桃正宗



新聞記事より